

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 九州大学

学部・研究科等名 工学府

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 I 「教育の実施体制」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」

工学府では、課題探求・課題解決能力の養成を通して、先端的な創造性能力、統合的な専門能力を育成するとともに、国際性を育成することを目標に挙げている。そのため、“英語による教育課程の整備・充実、留学生受入数の増加、外国人教員の増加”を目指し、英語での教育内容や教育方法の改善に向けた様々な取り組みを行っている。その結果、教育の質向上支援プログラム（EEP）における教員の英語力向上、国際化拠点整備事業（グローバル30）での英語による教育の実施体制の整備がなされた。また、インターンシップ制度を導入・促進し、実務経験を通して将来の進路の展開を図っている。工学府ものづくり工学教育研究センターでは、アジア人国費奨学金留学生の支援を行った。さらに、教育内容および教育方法の改善に向けて、以下に示す様々な取組を行った。

取り組み事項	実施主体	実施年度	教育内容・教育方法の改善状況
グローバル COE「未来分子システム科学」	工学府システム生命科学ほか	平成 19～23 年度	グローバル COE において、学府横断型の未来分子システム科学コースが新設された。国際シンポジウム等で院生が研究発表、活発な討議を行うことにより、グローバルな視野の涵養が図られた。さらに、理学府との研究交流をすることで、個々の研究の幅が広がった。
アジア人財資金構想「エネルギー・環境技術人財育成パートナーシッププログラム」	工学府ものづくり工学教育研究センター	平成 21 年度～	「産業工学プログラム」の特別コースを創設し、産業界に対する視野を拡大させる「産学連携専門プログラム」、日本企業で働くために必要な「ビジネス日本語」、「企業インターンシップ」等を通して、アジア等国費留学生の日本企業への就職支援を行った。
教育の質向上支援プログラム（EEP）	工学府	平成 21 年度～	本学で公募の「教育の質向上支援プログラム(EEP)」に「国際工学教育環境整備と若手教員の海外研修」の課題で採択され、「学外講師による学内研修」と「英語教育海外研修」を実施し、教員の英語力向上を図るとともに、教材開発と留学生の学習環境を調査し、工学府 FD を実施した。
国際化拠点整備事業（グローバル 30）	工学府ほか（全学府）	平成 21 年度～	文部科学省の国際化拠点整備事業の採択を契機に、工学府では英語だけで学位の取得が可能なグローバルコースを開設することを決定し、機械工学専攻・水素エネルギーシステム専攻の修士課程グローバルコースを設置するとともに、6名の外国人教員が採用され、英語による教育の実施体制が整備された。
若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）	工学府地球資源・環境系	平成 21 年度～	大学院学生、ポスドク、助教等の若手研究者が海外において一定期間教育研究活動に専念する機会を提供し、派遣研究機関の教員や学生と積極的にコミュニケーションを図り、地球資源と環境に関するグローバルな視点の形成を行っている。
原子力コア人材育成プログラムおよび原子力教育支援プログラム	工学府	平成 21 年度～	核燃料サイクル工学に関する実験・演習の充実、原子炉物理・放射線計測および安全学に関する実験・演習の充実と補助教材の開発を図っている。